

### 句碑 村上鬼城

-須賀神社(中町)-



須賀神社氏子総代表・中町区長 葉原一泰さん

厄災清め 秋を迎える

須賀神社の茅の輪祭りは、毎年9月1日に神社境内で行われます。鳥居のそばに、300本ほどの茅を束ねた直径約2メートルの大きさの輪が作られ、参拝者はこの輪をくぐり抜けることにより病氣やけがれなどを取り除くといわれています。参拝者には、「思うこと皆つきねとて麻の葉を きり握りても祓つるかな」など三首の歌のついた茅が配られ、各家庭の厄災をはらい清めます。

なつかしき 沼田の里の茅の輪かな  
8月の祇園祭りが終わり、秋風が吹き始める9月1日、須賀神社で「茅の輪くぐり」のまつりがあります。氏は茅の輪をくぐり抜けることで疫病から免れ、すがすがしい気持ちで秋を迎えられるといい、現在も行われています。

句碑は同社の本殿裏、具指定の大ケヤキの根元に建ち、村上鬼城が「茅の輪くぐり」を詠んだものです。俳人の金子刀水と植村椀外が鬼城庵を訪ね指導を受け、「茅の輪句会」を設立。門人らにこの句の短冊を会員証のように配布しました。碑は1936(昭和11)年に建立。1963(昭和38)年に刀水が営んでいた山田屋書店から現在地に移されました。



上) 郷土色が豊かににじむ須賀神社の句碑 下) 神社に設置された茅の輪とススキを持つ巫女

# さまざまな文学碑 地域に根付く

自然や文化、産業、人生、信仰とさまざまな方面で生きた偉人たちの文学碑が、各地域に多く存在します。文化財として受け継がれてきたものや小さなものまで、これらを知ることで地域と碑との関わりが見えてきます。

受け継がれる童謡や校歌

### 詩碑 林 柳波 -沼田小学校、舒林寺(村木町)-



おうまの親子は  
仲よし こよし  
いつでも 一しよに  
ポックリ〜あるく

『うみ』や『おうま』など、一千編を超える詩を書いた童謡作詞家の林柳波(本名林照久)は、名誉市民として市民から親しまれています。学校歌の作詞は約40校になり、母校沼田小学校校歌も手掛けています。柳波の詩碑は市内に2基あり、ひとつは同校校庭に建つ『おうま』の詩が刻まれた碑



上) ツツジの季節。代表作『おうま』の一節が刻まれた詩碑がある沼田小 下) 若葉のつややかな中に建つ詩碑(右)と母子の墓(左)(舒林寺)

で、片品川産の安山岩にレリーフとスウェーデン石がはめ込まれています。碑は木々に囲まれた体育館とプールの間にあり、サクラの開花や葉の色づきで季節を感じられる風情ある場所にもなっています。

もう一つは、柳波の生家隣りの舒林寺にあり、故郷の母りきを偲んで書いた詩が刻まれ、柳波生誕100年を記念して建てられました。碑の後ろには、りきが眠る墓も佇んでいます。全国から童謡詩を募る「柳波賞」は1999(平成11)年から継続されています。

観音霊場に漂う文化の香り

### 句碑 松茂庵布什

-白岩堂跡-

志ら 萩や  
う紀 世越  
遁類 道  
細し



句碑後ろには戸神山が見え、田園が広がる



旅を好んだ父子の心

### 句碑 松永乙人・笠人

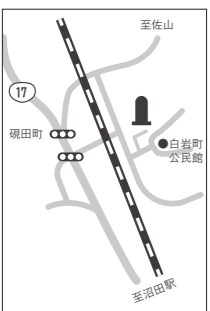
六月を  
列になかる、しみつ哉  
灯りの影の夜明を  
作流さむ佐哉 笠人  
俳も  
さらして炉端の寒かな乙人



松永乙人・笠人の父子は、旅が好きで各地を巡って句を詠みました。碑(写真右)は辞世の句で、「しみつ」は地名の清水をかけています。乙人は文章も好み、浄瑠璃本『蘭原騒動』も書きました。虚弱体質の笠人は30歳で亡くなり、句は笠人の墓石(左)に記され、乙人の笠人への追悼句も刻まれています。



住職の中島久太夫は、地域の俳句会の中心人物で、俳号を松茂庵布什と名乗りました。白岩堂の碑には、寿命が短いシラハギを自身の命に掛けた辞世の句が刻まれています。沼田三十三番観音札所の第二十七番所で、芭蕉句碑も見られる文化の香り高い場所です。



運動会では、堂々とした姿で演奏を披露



沼田小学校  
小野愛菜さん(左)  
根立紗来さん(右)

### 海を思い浮かべて 拍子の変化楽しい

保護者や地域に初めてマーチングをお披露目した運動会。「柳波先生に届くように」の思いで、6年生は柳波メドレーの練習に励みできました。小野さんは「メドレーは全ての楽器に主旋律があり、『うみ』は拍子の変化があっおもしろい」と聞きどころを伝えます。根立さんは柳波が歌詞に込めた思いや情景を想像することを常に意識し、「海に行ったことがない人でも、思い浮かべてもらえたら」と話します。学校創立150年の式典が最後の演奏。皆の心を一つにして感動を届けます。